



THE LETTER 宇都宮東教室

第 11 号 図形問題

発刊日 2025 年 11 月 18 日

文責 熊澤洋一

「授業中は、「言われてること」も「やってること」も理解できるのに「自分でやる」とできない、なんで？」・・・よく聞く話です。 そりやそうでしょう、「理解したのではなく、理解した気になっているだけ」です。授業自体はどうしても受動的なもの、説明を聞いて「なるほどね」、「分かった」となりますが、自分で解いたわけではないし、考えたわけでもありません。

この時期、小学生・中学生は全学年が算数・数学において「図形」単元に突入します。角度、面積、体積、長さ・・・「自分で考えて」、「自分で作戦を立てて」、「あーでもない、こーでもない」と考え続けないと、「応用問題」への対応は難しいです。図形だけは、粘り強く考えた人が「考えた分だけ」成長していく単元かもしれません。応用問題は、「基本問題」の考え方が2つ、3つ同時に問われているわけで、「難問奇問」のそれとはわけが違います。基本を「こんな感じかな」・・・で済まらず 何度も繰り返し、時間をかけて体得してみることです。徐々に多角的に「図形が見える目」になってきます。解けるか解けないかは問題ではありません、「考えること」が重要で、「考えている時間＝成長している時間」です。

例えば、補助線を引かないと解けない問題が登場した場合。分かりません・・・と素直に速攻解決を目指す生徒と、とにかくじっくり考える（やり方を聞きたくない生徒・宇高宇女や高専志願者に多い傾向）生徒に分かれます。科目単元、時期にもよりますが、「図形」だけはじっくり考えてほしい単元かなと考えます。ここ数週間が大切です。特に、中3受験生は年が明けるころには、一問に大量の時間をかけてはいられなくなります。今日この瞬間を大切に「じっくり」考えてみよう。

